

Qui parle,

2026年10月30日[金] 18:30-20:00

誰が語り、誰が聞くのか

— バオバブからパリへ、アラン・マバンクと物語の場所



Qui écoute?

Du baobab à Paris : Alain Mabanckou et les lieux du récit

アラン・マバンク来日記念シンポジウム

場所：東京大学 駒場キャンパス 18号館ホール | 対象：学生・教職員・一般 | 言語：日本語・フランス語(逐次通訳付)
参加費：無料(要予約) | ディスカッション：桑田光平(東京大学)、福島亮(富山大学)

コンゴ共和国出身の作家アラン・マバンクの初来日と、その代表作『ヤマアラシの回想』の日本語訳刊行を記念してシンポジウムを開催します。シンポジウムと言っても、専門的な文学研究を一方的に発表する会ではありません。二人の訳者がそれぞれ、翻訳について、物語世界について、登場人物について、そして作者について、翻訳するなかで疑問に感じたことや関心をもったことを出発点に、短い発表を行います。それに対してマバンク氏が応答し、訳者との対話を通して、作品の新たな読み方を探っていきます。

人間の〈分身〉である一匹のヤマアラシが、沈黙するバオバブに向かって語り続ける『ヤマアラシの回想』。なぜヤマアラシが語り、なぜバオバブがその声を聞くのでしょうか。対話では、『割れたグラス』の酒場や、最新作『パリのラムセス』（未邦訳）のパリへも視野を広げながら、マバンクの作品において、物語が誰によって、誰に向けて、どのような場所から語られるのかなどを考えます。

作家自身の言葉を通して、作品の舞台裏や創作の源泉に触れることのできる、一般の読者にも開かれた会です。会場からマバンク氏への質問を受け付ける時間も設ける予定です。

予約フォーム



主催：科学研究費助成事業基盤研究(B)「現代フランス語圏文学史作成のための包括的研究——「世界性」の文学史へ」(代表者：桑田光平)
共催：日仏会館、在日フランス大使館、東京大学大学院総合文化研究科・表象文化論研究室 | 問い合わせ先：桑田光平(kkuwada@g.ecc.u-tokyo.ac.jp)